

# プーチンの解決策：分断され、武装解除されたウクライナを分離する

100 キロ幅のウクライナに誰もいない地帯をつくる

By Mike Whitney | Information Clearing House

December 02, 2022



Map from John Helmer

「ロシアが解決策を押し付ける可能性は高いと思われる。もし、予想どおりに、西側が交渉できず、その気がないことが明らかになったら、ロシアは最善の解決策を取らざるを得なくなるだろう。あるいは代替策として、ロシアは「取引き」によって、ウクライナ西部に、好きなだけの大きさの「デッド・ゾーン」を創ることを示すだろう。もし、ウクライナとそのアメリカの関係者が、正気に戻らなければ、そのデッド・ゾーン（管理者のない土地）は、恐ろしく大きなものとなるだろう。」——Yves Smith, *Naked Capitalism*

この問題は最後にどうなるのだろうか？

ロシアはどのようにして、モスクワの敵によって完全に武装されていない、「中立の」ウクライナを、創ることができるのか？ どうやって彼らは、キエフが、NATOと共同軍事演習を行ったり、ロシア領土にミサイルを設置したり、しないように、することができるのか？ どうやって彼らは、ウクライナ軍が、東地区のロシア民族を爆撃したり、極右民兵が、できるだけ多くのロシア人を殺したりすることを、食い止めることができるのだろうか？ プーチンはどうしたら、ウクライナをよい隣人に変え、安全を脅かしたり、反ロシア憎悪や偏見を煽らないようにできるのか？ そして最後に、もし一方が他方と平和的に交渉することができないなら、紛争をどうやって解決することができるのか？ Mint ニュースのこの記事を見ていただきたい：——

「ウクライナ大統領ヴォロジミル・ゼレンスキーは、火曜日、ある法令にサインし、ウクライナと、ロシアのプーチン大統領との間の、平和交渉の見込みは、〈不可能である〉と通告した。…

「彼（プーチン）は、威厳や正直さがどのようなものかを知らない。したがって我々は、ロシアとの対話の用意はあるのだが、それは、ロシアの別の大統領に対してである」と、金曜日、ゼレンスキーは言った。

ゼレンスキーがプーチンと交渉する気がないことは、調停があり得ないことを意味するものではない。それは、ゼレンスキーが、結果において発言はしない、ということにすぎない。より強力な国家として、ロシアが、その基本的な国家安全の目的を達成するような調停を、押し付けることは、常にロシアの能力の中にある。そしてそれこそ、プーチンがやろうとしていることである。この調整は理想的でもなく、敵対関係を完全に終わらせるものでもない。しかしそれは、ロシアの敵からの一定の保護を保証するものであり、現状では、望まれる限りの最上の策である。残念なことは、この調停は、生命力ある一貫した国家としての、ウクライナの存在をもまた、終わらせてしまうことである。そして、ロシア

がその特別軍事作戦を終えた後、ウクライナは、それが生きるためには、西側の同盟国に完全に依存する、脱工業化した荒地としての、惨めな未来に直面するであろう。

ここに、モスクワを拠点とするジャーナリスト、ジョン・ヘルマーによる論説からの抜き書きを紹介する。彼の考えでは、ロシア軍は、やってくる冬の攻勢において、中央ウクライナの広大な部分を解放し、その土地の多くは、100 キロメートルの幅を持つ、非武装地帯 (DMZ) の一部となり、それはロシアを、ウクライナのミサイルや重砲の攻撃から保護することになる。ヘルマーが言っているように、この軍事的に押し付けられた調停のモデルは、「1953 年 7 月 27 日、朝鮮戦争を終わらせた、板門店休戦協定である。…UDZ (ウクライナ非武装地帯) の内部には、電気もなく、人もおらず、何もないが、ただ休戦協定の条件を行使するためのモニターだけがある。」更にヘルマーの言葉を引用しよう：——

「軍事ソース：…ひとたび、これらの標的の破壊が完成したら、インフラストラクチャの残りには地雷がかけられ、この地域にはセンサーが設けられる。そこで軍隊は、ロシア戦線の背後へ、急激な見せかけの撤退を行うが、そこでは堡塁や塹壕の建設が、すでに始まっている。

「市民たちと武装解除されたウクライナ軍は——ウクライナ-ナチ軍を除いて——1 つか 2 つの回廊の通過を許され、彼らはこのゾーンから出ていくことを許可されるだろう。彼らはゆっくりしていることはできない。」…

「これらのソースは、次の冬の雪解け前には、新しい軍事的な線引きが行なわれるだろうと同意している。彼らはただ、どのように線が引かれているのか、次の 4 月にはどんな様子になっているかについて、意見が異なっている。「現在のところ、この線はドニエプル川に沿っており、このゾーンは西岸から、ウクライナの臀部へと延長されるであろう。——私の推測では、その幅 (奥行) は 100 キロメートルを超えらると思う。この距離になれば、ロシアの領土には、ほとんどのウクライナの大砲は届かないであろう。100 キロ幅のゾーンは、また、飛んでいるどんなものに対しても、インターセプトの時間を、ロシア軍に与えるだろう。

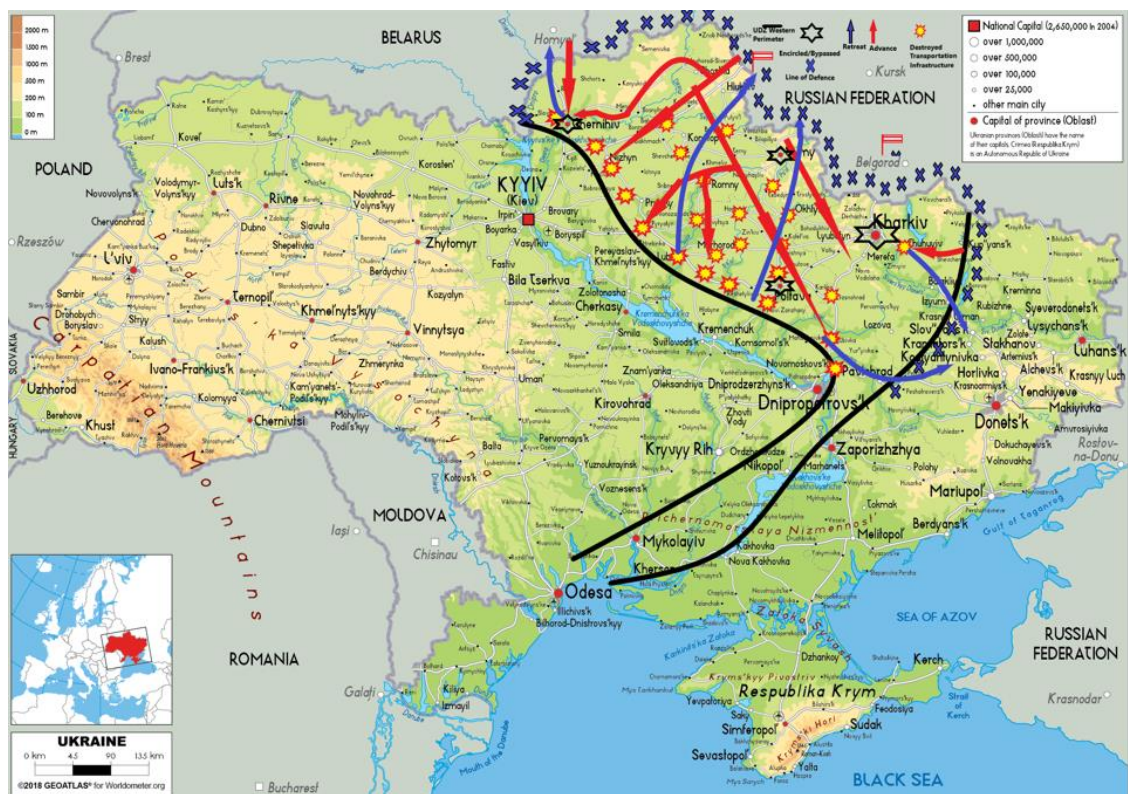
「北方戦闘領域については——これは、クラマトルスクとスロヴァヤンスクから、ハリコフまでだが——これらはロシア国境上または、その近くの要塞部隊と、偽装的憎しみの領域である。彼らも温情をかけられないだろう…そして、すでに電力も人員も奪われ、ナチ化も解かれている。

「ロシアの北方作戦において特に強調すべき点は、その領域を占領したり抑えたりしないことである。…この考えは、領土を占領することではない。もちろんそれを長期

間にわたって支配することではない。その目標は、頭をもたげてくる敵と、彼らの依存するインフラを破壊すること、地雷やセンサーを敷設し、その後で撤退することである。

「ひとたび決められた輸送や兵站拠点が確定したら、工兵部隊による彼らの破壊の仕事が始まるだろう。橋、道路、鉄道、鉄道車両庫、空港、燃料倉庫と配給、電気サブステーション、連絡や通信タワー、中央オフィス、物資倉庫、農業用装置——何でもこのような、このゾーンの西部国境で、ウクライナ-NATO 軍が使用し、役に立っている可能性のあるすべては、破壊されるだろう。それはまた地上軍の仕事でもあり、それはミサイルやドローン攻撃によるより、もっと包括的で徹底している。

「市民や武装解除された戦士で、自動車類を持たない者は、背中に背負えるものを持って、特別に用意されたバスまで、この非武装ゾーンの外側まで、歩くことが許されるだろう。…誰でも勝手にこのゾーンの内部に留まる者は、ラジオ、ビラ、ラウドスピーカーを通じて、敵の戦闘者であるとみなされ、したがって狙われることを、はっきりと知らされるだろう。決められた時間の後で、存在している人々のための〈黄金の橋〉は、破壊されるだろう。〔ウクライナ休戦協定——いかにして2023年のUDZは、1953年の朝鮮DMZのように軍隊を分離するか〕 John Helmer, *Dance with Bears*



ヘルマーはこれを完全に要約している。プーチンは、広大な、人の住まないノーマンズ・ランドを、ウクライナの中心に創ろうとしており、これは西と東を分離するもので、生活可能な、一貫した国家としてのウクライナの存在を終わらせるものである。これが軍隊に押し付けられた調停というものだ。それは理想的でもなく、必ずしもすべての戦争を終わらせるものでもない。しかし、それはワシントンが好んで無視した、ロシアの基本的な安全保障の要求に応えるものである。(強調訳者)

間違いなく、ワシントンはこの調停を好まず、この新しい国境には決して合意しないだろう。しかしアメリカは、この問題について、最終的な断言はしないだろう。そしてそれが非常に重要な問題点である。なぜなら、「地球的安全保障の保証人」としてのワシントンの役割は、今、過去のものだからである。ロシアはウクライナの国境を決定しようとしており、それは、そのようになるべきである。だから確かに、NATO 総司令部やホワイトハウスからの、歯ぎしりほもっともなことかもしれないが、それはごまめの歯ぎしりである。この問題は調整済みである。ただもちろん、アメリカと NATO が地上部隊を戦闘のために送るなら別で、そうならば、おそらく、NATO の分裂が起こり、それは必然的にその崩壊に至るであろう。どちらにしても、ウクライナの運命はモスクワで決まるのであって、ワシントンによってではない。そしてその現実、地球的な権力の分配に多大なインパクトを与えるであろう。町には新しいシェリフが現れるが、彼は決してアメリカ人ではない。

要するに：——ヘルマーの分析は、最もありそうな進展のシナリオのように思える。プーチンはこの点において、最も見事な自制力を示してきた。しかし、9か月の無意味な交渉や流血の後で、これに片を付けるべき時がきた。モスクワは常に、道具袋の中に斧を携えていた。それが使われるべき時がきた。我々は、これがこんなふうにならなくてほしくなかったかもしれない。しかし覆水は盆に返らない。嘆いてもしょうがない。ワシントンはこの戦争をできるだけ引き延ばし、ロシアに血を、一滴もなくなるまで流させ、その国境を越えては力を発揮できず、アメリカの「アジア転換」計画に、邪魔させないようにしたかった。しかし、プーチンはその計画を挫いた。彼はワシントンの畏にはまることなく、また、血とカネを暗い穴に流し込んだりはしない。彼は、今度一度限り、この問題を解決させ、後は手を引くつもりでいる。

次の引用は、ダグラス・マグレガー (Douglas MacGregor) 大佐との、あるインタビューである：——

「この紛争全体は、もし我々が単に、モスクワの、ウクライナで起こっていることこの法的な利害(要求)を、認めさえしたら、避けられたであろう。…ウクライナで起こっていることは、ロシアにとって重要なのだ。…だから我々は、もっと早く介入し

て、〈休戦して話し合おうではないか〉とすることができた。実際、我々は、過去 10 年か 20 年に及んで、ウクライナ内部で起こっていることについての彼らの訴えを、聞いてやることができたのだ。そしていま私は、ゼレンスキー政府が、非常に危険な状態にあるのを見ている——彼はロシアに絶対的な敵意を持ち、ワシントンに対しては絶対的に従っている。ワシントンはあらゆる手を尽くして、ロシアを致命的に弱体化させようと決意している。…これに対する解決案は——モスクワとの無益で無意味な戦争に加担することなく、キエフの政府内部の人々の心に、いくらかでも正気を吹き込んでやることである。(Colonel Douglas MacGregor :「ウクライナは消滅しようとしている」)

<https://youtu.be/dfgF4x7TCmM>

私の考えでは、決定はすでに出されている。ウクライナは、ワシントンが望むか否かに関わらず、2つに分裂しようとしている。そのやり方しかないのである。

#### [Gretchain 訳注]

これは相当の自信と証拠があって書かれたものと思う。訳者の私も驚いているが、信用するしかない。もし、この通りのシナリオで進行して、来年の春頃には片が付くとしたら、世界は唾然とするだろう。ほとんどの人は、こういうことが起こるとしても、もう少し後のことだと考えていたであろう。プーチンの判断と行動力には驚かざるを得ない。

しかし、このウクライナ紛争は、ロシア・ウクライナ 2 国間の問題で、アメリカなどが入り込む余地はなく、内政干渉になるはずである。これを、全く事情を知らない外国が、最近十数年の両者の恐ろしい関係も、ましてや、AD 10 世紀からあったという「悪の集団ハザール・マフィア」と、ロシアとの因縁も知らず、「両国の決められた関係を勝手に変えることは（俺が）許さない」というようなことを言っただけでは、プーチン氏もたまったものではないだろう。

ダグラス・マグレガー大佐については、信頼に値する米退役軍人として、少し前に取り上げた。<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/220318.pdf>